

## 1. 活動テーマ

### 【テーマ】

虫の気持ちになって触ってみよう

### 【テーマの設定理由】

遊びの中で秋の虫の声が聞こえるようになってきたことに気付いた子ども達。声はするけど姿はなかなか見つけられない中で「寒くなってきたから隠れてるのかな?」「冬眠の準備中かな?」という声が聞かれた。どこなら見つけられるかな?飛んでるつもりになって走ってみたら風がもっと冷たく感じるかな?など子ども達が考えたことを実際に試してみることにしました。

## 2. 活動スケジュール

- ・身近な虫について調べる。
- ・園外の雑木林に出かけ、落ち葉や木の根元を観察する。
- ・虫の気持ちになって思い切り走り、風の感覚を確かめる。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

- ・落ち葉がたくさん落ちている場所、思い切り走ることのできる広場を調べ、園外へ出かける。

## 4. 探求活動の実践

### 【活動内容】

虫について調べていくと落ち葉の中に仲間とまとまって隠れていることで身を守ったり、温度や湿度がある程度保たれたりすることが分かった。また、冬眠ではなく越冬するために虫によってさまざまな工夫があることがわかり、あえて卵やさなぎの状態でも越冬する種類もあることを知った。雑木林につくと落ち葉をかきわけて地面の色を観察し、「本当だ!濃い茶色だから湿ってる!」と湿度があることを確認したり、落ち葉を手の上にかけて温かいを試している子どももいた。落ち葉に触れているうちに、丸まっていたりいろいろな形の落ち葉が集まっていることに気づき、「ふんわりしてるから軽いなね。」「いろいろな形があるからトンネルみたいになって隠れやすいね。」と考えたことを言葉にしていた。

### 【活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり】



落ち葉の隙間にてんとう虫を見つけました。「やっぱり隠れてたのか!」と嬉しそうに言いながらも静かに見守っていました。てんとう虫が落ち葉の下に隠れていたことを知ると「踏んじゃってないかな?」と慎重に歩いてみようとする姿も見られました。



落ち葉をめくってみると地面は湿っていて、コケが生えているところもありました。落ち葉もカラカラに乾いて握ると粉々になってしまうものや、黄色でまだ柔らかい葉っぱもあり、「こっちの柔らかい葉っぱはご飯用じゃない?」「じゃあこっちの緑の草は滑り台かもね!」と虫たちの暮らしを想像していました。



木の根元に穴があること、木の皮が浮いていることに気付きました。「こういうところは虫が集まってるんだよね。」と調べたことを思い出しながらかみじくりに観察していました。木の皮の隙間に虫の姿を発見すると「ここ風あたらないもん!あったかいんじゃない?」とやり取りを楽しんでいました。



「きのこ生えてる！」と興奮気味に教えてくれました。近くの葉っぱの形が周りの葉っぱに比べると大きいことに気づき、「雨宿りできるね。」と友達に伝えていました。「お腹がすいたら食べられるね!」「でも毒キノコだったら…?」「食べないほうがよさそうだね…」と子どもならではの発想がとてもかわいらしかったです。



「葉っぱ気持ちいい!」「太陽が当たってる  
ところあったかい!」「草のにおいする!」  
と寝転がりながら嬉しそうに言葉にしていま  
した。走ってみると「立ってるときより風がく  
るから虫は寒いかも。」「でも今日みたいに  
暖かかったら気持ちいいから出てくるんだね。」  
と自分で試して納得していました。

## 5. 振り返り

### 【振り返りによって得た先生の気づき】

4月から子ども達が好きな虫にフォーカスして探求を深めてきました。身近な虫について知る中で、季節の変化に伴って虫たちの暮らしがどう変わるのかというところに関心が出てきたタイミングを逃さずに今回の活動を行うことができ、よかった思います。調べたことをもとに実際に観察してみたり試してみたりすることで、「やっぱり!」「そうだったのか!」という気持ちを経験させてあげられたのではないかと思います。もしかしたら～かもしれないと考える時間はこれからも大切にしていきたいです。